

七郎(しちろう)

登録番号：第838号

育成者：関屋道直

登録年月日：昭和60年7月6日

来歴：鹿児島県在来のすももの偶

登録者：関屋道直

発実生又は枝変わり

(鹿児島県垂水市本城3757)

特 性

■栽培特性

樹勢は若木のうちはとくに強いが、樹齢とともに落ち着いてくる。樹の大きさはやや大きい、開張性である。枝の発生はやや粗で、花束状短果枝の着生は良好である。整枝せん定は「ソルダム」に準じて行う。

開花期は鹿児島県東郷町で3月中旬と早く、「ソルダム」より7日程度早い。花粉は多いが自家不結実性である。人工受粉によって結実は良好で豊産性である。交雑和合性の高い品種としては「万左衛門」、「サントローザ」、「ソルダム」がある。「万左衛門」は開花期がやや早いかまたは重なるために受粉樹として適しているが、経済性に乏しい。経済性の高い「サントローザ」、「ソルダム」は開花期が「七郎」より遅いために前年度の花粉を貯蔵して使用する必要がある。結実は短果枝、中果枝に多い。

収穫期は7月中旬で「ソルダム」より5日程度遅く、また「万左衛門」より7～10日遅い晩生品種である。

■果実特性

平均果重は90g程度で比較的大きく、玉揃いも良好である。果形は扁円形で、果頂部の空洞もない。果皮の地色は淡緑色で、完熟果は全面に紅紫色に濃く着色する。

果肉の色は濃紅色で果肉はやや硬いほうであるが、果肉の成熟は着色よりやや遅く濃紅紫色の果色になり、やや果実に弾力性が出てから収穫したほうが果肉も比較的柔らかくなり、濃紅色の果汁も多くなり、酸味も少なく、食味も良好となる。

日持ち性は良好である。

糖度(屈折計示度)は適熟果で13%前後となり比較的高い。果汁酸含量は0.7%程度で、比較的酸味は強いほうである。空洞果の発生は見られない。果頂部の裂果は少ないほうであるが、成熟期に多雨に遭遇すると多発する。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

本品種は収穫期が7月に入るため、夜蛾やカメムシによる被害が多いので注意する必要がある。

本品種は着色先行型で着色が十分果皮全面に及んで果肉に弾力性が出てきてからが収穫可能となる。早採りすると果肉は硬く、酸味が強く、食味はあまり良くない。日持ち性は良好なので、完熟収穫が望ましい。収穫適熟の判定を適切に行うことが重要である。

開花期が早く晩霜被害の頻度が高いため、ハウス栽培のほうが生産が安定している。ハウス栽培適性品種といえる。

■地域適応性

開花期が早いことから晩霜の被害を受けやすいので、その対策を講ずる必要があるが、既存のスモモ栽培地域では栽培が可能である。

(西元直行)